

理事者選任のお知らせ

五月二十日開催の第十四回通常総会において、二名の理事辞任に伴う補欠選任の結果、左記の二氏が新しい理事に就任されました。

大迫 健 氏

所属 農林中央金庫 札幌支店長

斉藤 吉則 氏

所属 全国農業協同組合連合会

東日本地区担当部長

出版助成の案内

- ▽募集対象 当研究所の協力研究員
- ▽助成対象 地域に根ざした実践的な研究成果の出版費用の一部とする
- ▽助成金額 審査の結果、対象者には出版物の製作費用の二分の一(百万円を上限)を助成
- ▽応募方法 所定の様式の申請書および出版計画書に出版原稿を添えて提出のこと
- ▽募集期間 平成十六年九月末日迄とする
- ▽選考結果 十一月末日迄に本人に通知する
- ▽提出先 〒〇六〇一〇〇〇四
札幌市中央区北四条西七丁目
一 番 地
北海道厚生連別館五階
(社) 北海道地域農業研究所



研究叢書の
刊行について

内容

- ◇いまなぜ地域の活性化なのか
- ◇求められる技術と経済のバラ
- ンス
- ◇海外の農業への“目線”

定価

本体2000円(税込)

ター化を図っている等

定価

本体3500円+税

編集後記

二〇万人、二〇八万人、二一八万人。前二つの数字は、六月に行われたYOSAKOIソーラン祭りの第一回(平成三年)と今年第一三回における観客動員数です。

三つ目の数字は二月に開催された第五五回札幌雪祭りの観客数です。雪祭りに匹敵する規模に膨れあがった北海道に夏を告げるこの大イベントの始まりは一〇チーム・千人でした。それが急成長し今年は一三三チーム・四万四千人となりました。マンネリ化だ、常連チームが最終選考に残るとの声がある中「仕切り直しの一年目」として意気込んだ結果、史上最高の観衆を呼び込みました。

また経済効果として、昨年より七億円増えた二〇億円余と報道されています。「リオのカーニバル」を目指すこの祭りが、北海道をさらに元気にするイベントに進化していくことを大いに期待する

書名

「地域活性化の基本条件」

—いかにして担い手を力づけるか—

著者

七戸 長生

北海道大学名誉教授

発行所

(株)北海道協同組合通信社

札幌市中央区北4条西13丁目
TEL 011(231)5261
FAX 011(209)0534

書名

「競走馬産業の形成と協同組合」

著者

小山 良太

発行所

(株)日本経済評論社

東京都千代田区神田神保町3
12

TEL 03(3230)1661
FAX 03(3265)2993

内容

◇国際競争下の地域産業の存立は可能か

◇競走馬産業の集積地・日高は国際化・馬産不況に晒される一方、産業構造転換とクラス





DATA FILE

関連事項 / DATA

(株) 北海道協同組合通信社

〒 060-0004
札幌市中央区北 4 条西 13 丁目
☎ 011(231)5261
FAX 011(209)0534

(株) 日本経済評論社

〒 101-0051
東京都千代田区神田神保町 3-2
☎ 03(3230)1661
FAX 03(3265)2993

札幌市経済局農務部 農政課 農産振興係

〒 060-8611
札幌市中央区北 1 条西 2 丁目 2
☎ 011(211)2406
FAX 011(218)5132

(社) 北海道地域農業研究所

〒 060-0004
札幌市中央区北 4 条西 7 丁目 1
☎ 011(281)2566
E-mail : kaihou@chiikinouken.or.jp
HP : http://www.chiikinouken.or.jp

ものです。

さて、次は年金問題で話題となつていきます高齢社会の話。YOSAKOソーラン祭りが始まつた一年前の平成二年の総人口は、一億二三百一十万人でした。そのうち六五才以上の高齢者人口は二二%、七五才以上の高齢者人口は約五%占めていました。その比率を去年のデータで見ると総人口一億二七六九万人のうち、六五才以上人口一九%、七五才以上は八%となつています。いかに高齢社会が一〇年余りで急速に成立?したか

を現しています。そして一六年後の平成三十二年...もうくたばつていられるわ、の眩きも聞こえてきそうですが...六五才以上二八%、七五才以上はなんと二四%と推計されています。

ブルーミーな気分になつたところで、現在の平均寿命が男性八〇才が浮かびました。今の六五、七五歳をみると体力や気力も充実し、仕事、貯蓄、資産運用などで経済力も維持しています。「高齢者＝七五才以上」の定義は「高齢者＝七五才以上」に変える時期

ではないか、と思います。因みに男子の平均寿命は昭和四十五年に六九才でした。爾来三五年。高齢者の定義を変える時はすでに到来していると思うのは私だけでしょうか。

さて暗い話から一転明るい話に移行しましょう。札幌管区気象台が六月末発表した三ヶ月予報によると七月、八月ともに気温・降水量は平年並みで、八月に太平洋高気圧に覆われて暑い日もあるで

しょう、となつていきます。日本では、経験的に冷夏の翌夏は猛暑になるといわれていますが、過去札幌では平成五年の冷夏冷害と翌六年の猛暑が思い出され

ます。
東シベリアタンクは「今年の七、八月の平均気温が昨年より上昇して平年並み（東京・大阪平均で二七・〇℃）にとどまつたとしても、昨年から夏季商品消費が増加すること、農業生産が増加すること、二次的な波及効果も含めたトータルで今年度の実質GDPが約七、五〇〇億円押し上げられる可能性がある。」さらに「猛暑になるとGDPを二兆円押し上げる」と予想しています。
北海道も含め冷夏の反動として気温が平年並みか猛暑となり豊饒の秋を迎えることを切に祈りたいものです。

(川原 和雄)